

序

奈良文化財研究所と中国遼寧省文物考古研究所との共同研究は、1996年に締結した「東アジアにおける古代都城遺跡と保存に関する研究—三燕都城等出土の鉄器及びその他金属器の保存研究」が始まりでした。その後、2001年には、これを発展させた「3-6世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」の共同研究協定書を締結し、三燕文化遺跡出土鉄器を中心に友好共同研究をおこなってきました。とくに喇嘛洞墓地出土の遺物については、当初から一貫して調査研究を継続してきております。調査の内容は、日本側研究者も直接出土品の観察をおこない、考古学的調査による実測から写真撮影、理化学的調査、そして保存処理までおこなうものであります。その成果の一端として、2002年には『三燕文物精粹』中国版を、2004年にはその日本版を公表いたしました。

遼寧省を中心に展開する三燕時代の墳墓や都城の遺跡と遺物は、この時代の文化が、韓半島を通して日本の弥生文化や古墳文化に与えた影響の大きさを示すもので、日本の原始古代史研究にとって大変重要な意味を持ちます。この10年間にわたって、日中両研究所が友好的な共同研究を持続できたことは、この時代の日中文化交流の実態を解明したいというお互いの強い意思の表れであります。また、遺跡や遺物の保存と活用についても、両国の経験と知識の交流を図ることができたことは誠に重要であります。

友好共同研究も2005年でちょうど10年が経過しました。組織的にも、また日中両研究所の研究者各自にとっても意義多い10年でありました。これを機に、これまでの研究交流にかかわった両国研究者の研究成果を論文集の形にまとめることとしました。ここには、三燕時代を中心にした出土遺物の比較研究から遺物の保存科学的な研究まで含まれております。これらの研究が、今後の新たな研究交流のいっそうの進展につながれば幸いです。

2006年3月

独立行政法人文化財研究所
奈良文化財研究所長
田 辺 征 夫